



新・みやぎ・シー・メール第12号

発行：平成30年11月27日

宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

珍客来遊！

環境資源チーム

私たち環境資源チームでは、秋になるとサンマ調査を行っています。サンマは秋になると道東海域で獲れはじめ、それから親潮とともに三陸沿岸に南下してくるところを表層トロールで漁獲して調査を行うのですが、そのときにいろいろな生物が混ざって獲れることがあります。

今年10月の調査では、珍しい生物が網にかかりました。

これはいったい何の生き物でしょう？オウムガイ？アンモナイト？



実はこれ、タコなんです。正式な名前をアオイガイ、別名をカイダコといい、殻をとってしまふとありふれたタコの外見です（貝のように殻の中でくっついていたり、ヤドカリのように腹部を巻き付けているわけでもなく、かぶっているだけなんですよ！）

殻をもつのはメスだけ。自分の分泌物で作ってかぶります。中に卵を産み付けて守るためと言われており、この個体も殻の中に卵を持っていましたが、近年の研究では殻をかぶる理由はそれだけではなく、殻に空気を入れて浮き袋のかわりにしていることがわかったそうです。

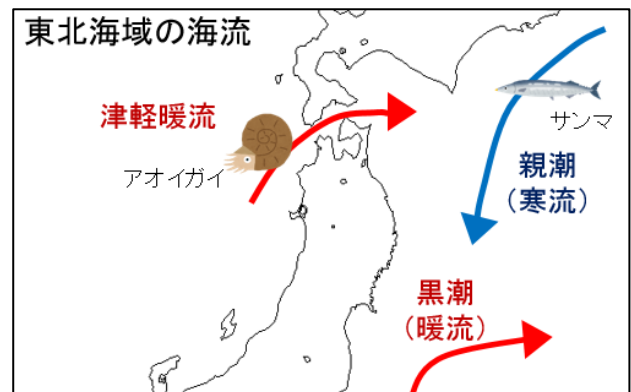
殻を持たないオスは非常に小さく、見つけるのは難しいようです。



殻に空気を入れるとこんな風に水面に浮くこともできます。しかしこの個体、漁獲されたとき殻を脱ぎ捨てて逃げようとしたのですが、脱いだ殻を見失ってしまったらどうする気だったのでしょうか……。一から作り直すのでしょうか……

アオイガイは本来、日本海側の暖かい海域でよく見られる生物です。三陸沿岸で目撃されるのは珍しいのではないのでしょうか。

今年は津軽暖流の勢力が強く、津軽海峡を越えて流されてきたアオイガイが、そのままサンマとともに親潮に乗って南下してきたと考えられます。暖流に乗ったはずなのに寒い海域にたどり着いてしまったと考えると少し気の毒ですね。



アオイガイの殻は美しく、インテリアグッズとしてコレクターには珍重されています。今年は三陸沿岸の海岸にもアオイガイの殻が打ちあがる可能性が高い、貴重な年です。海岸に行くことがあれば、ぜひ探してみてくださいね。

宮城県水産技術総合センター

ホームページ URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>